

クシーによる送迎が行われており、すぐに乗ることができた。鳩待峠に 11:00 に到着しそこで昼食を摂った。その時に空は明るくなり、太陽が顔を見せてくれた。S さんが、「さすが、リーダーの日ごろの行いがいいから。」と持ち上げてくださったが、「それは明日が終えてからにしてください。」と答えた不安な気持ちが予想をはるかに超える形で現れてしまうことになった。歩き始めて 30 分ほどたつ頃、ぽつぽつと降り始めた雨はいきなり、バケツをひっくり返したようななどしゃ降りになり、おまけに雷鳴まで聞こえ始めた。1 時間半ほどそんな雨に中をひたすら歩き続け、特に、横田代やあやめ平のような、木もなく雷の標的になりそうな場所は急ぎ足で歩いた。富士見山荘に近づくにつれ、雨もほぼ止み小屋の屋根が見えた時はほっとした。しかし、雨で濡れ、滑りやすくなった木道で何度も転んでしまう人が見られた。一度も転ばずに済んだ人は 2, 3 人だった。怪我が心配されたが、特に不調を訴える人もなく無事に小屋に着くことができ本当に良かったと胸をなでおろした。小屋のご主人に、「尾瀬では今までに見たことがないようななどしゃ降りでびっくりした。」と言われ、改めて私たちが遭遇した雨のすごさを感じた。途中、ヒメシャクナゲや、タテヤマリンドウ、キンコウカ、ゴゼンタチバナ、ワタスゲ、マルバモウセンゴケ、カラマツソウ、トキソウ、オノエランなどの花を見かけたが、雨の中だったので十分楽しむことができなかつたのが残念である。

小屋では、濡れた衣服や靴下、靴などをストーブで乾かしてもらいながら、夕飯までの 3 時間は楽しい宴会となった。夕飯後も 2 時間ほど宴会の続きを楽しみ、お開きとなった。各自が相当飲み物を持ち寄り、こんなに飲めるわけないと思っていたが、結局ほとんど飲み干してしまった。今回、宴会の準備や後片付けなどを男性陣が率先してやってくださり、女性人 3 人は楽をさせてもらった。

20 日は、6 時に朝食を済ませ、6:40 に小屋を出発した。下りの木道には細心の注意を払って歩いたが、それでも何人かは滑って転んでしまった。気を付けてはいても、濡れた木道は全く手ごわいと感じた。尾瀬ヶ原では至仏山がよく見え、カッコーの鳴き声も聞こえ疲れが癒された。花を探しながら木道を進んでいくと、牛首のあたりでアヤマや念願のニッコウキスゲの群落に出会うことができた。やっと尾瀬らしい光景にあえて満足した。木道はかなりの人出があり、何人かの歩荷にも出会った。いったい何十キロの荷物を担いでいるのだろうと思った。「すごい。」の一言である。山ノ鼻に着くまでに 2, 3 度雨に遭ったが、いずれも短時間で済んだので気にならなかった。山ノ鼻で昼食を取り、鳩待峠までの登りに備えた。12:35 に鳩待に到着、すぐに戸倉行のマイクロバスに乗ることができた。戸倉にある富士見旅館に駐車させてもらったので数分歩き、それぞれマイカーに乗り込み出発した。駐車料金の節約となり、有難かった。まずは、「ほっこりの湯」温泉に寄り、汗を流した。その後、農産物を買ったり、造り酒屋で試飲をしてお酒を選んだりした。また、Y さんや S さんは吹割の滝を見たことがないので、寄ることにした。前日の雨の影響か、めったに見られないような水量で、その大迫力に圧倒された。おそらく全員が初めて見る光景だったので、寄ってよかったと思った。

帰りの高速道路で途中渋滞に遭ったが、圏央道厚木 PA に 19:00 ころ到着し、B 級グルメなどを味わい帰途についた。

今回の山行では虫の発生が懸念されたが、虫は気にならなかった。とにかく濡れた木道の歩き方、その対処の仕方について課題が残った。そんな中、怪我もなく無事に帰着できたことが本当に嬉しい。皆様のご協力に感謝します。

*1: 本山行は当初往復ともに尾瀬戸倉直通ツアーバス利用の予定であったが、予約開始日に電話しても既に満席で予約できなかったため、急遽世話人会にマイカー利用を諮り了承され実施した。

※ 20 日(日)の休憩時間が計画より短かった。これは、帰りの温泉などの寄り道に備え山ノ鼻での昼食休憩を短くしたためである。